

日	月	火	水	木	金	土
☺	☺	☺		☺	☺	
☺	☺	☺		☺	☺	

2011年 12月

日	月	火	水	木	金	土
				1 全日	2 全日	3 休診
4 全日	5 全日	6 全日	7 休診	8 全日	9 全日	10 休診
11 全日	12 全日	13 全日	14 休診	15 全日	16 全日	17 休診
18 全日	19 全日	20 全日	21 休診	22 全日	23 休診	24 休診
25 全日	26 全日	27 全日	28 休診	29 休診	30 休診	31 休診

★23日(金)は祝日のため、休診となります。

★12月28日(水)から1月4日(水)まで、年末年始の休診となります。お薬が必要な方はお忘れなくお申し出下さい。

2012年 1月

日	月	火	水	木	金	土
1 休診	2 休診	3 休診	4 休診	5 全日	6 全日	7 休診
8 全日	9 休診	10 全日	11 休診	12 全日	13 全日	14 休診
15 全日	16 全日	17 全日	18 休診	19 全日	20 全日	21 休診
22 全日	23 全日	24 全日	25 休診	26 全日	27 全日	28 休診
29 全日	30 全日	31 全日				

★1月5日(木)より通常診療開始いたします。★9日(月)は祝日のため、休診となります。

当院サイトにも情報を掲載しています。
どうぞご利用ください。

http://www.azusawaseikei.com

あずさわせいけい ひとつこむ

〒174-0051

東京都板橋区小豆沢2丁目36-13

マツエククリニックビル5F・6F

TEL: 03-5916-4970 FAX: 03-5916-4977

あずさわ通信 第37号 [2011.12.01 発行]

あずさわ おもてなしの医療

発行元: 小豆沢整形外科

あずさわ通信

2011年

12月1日 発行 第

37号

あずさわ 小豆沢整形外科 おもてなしの医療



その野菜、汚染されています！

2万人近くの犠牲者を出した3月11日の東日本大震災と福島原発の重大事故、それによる首都圏電力不足で、日本は未曾有の衝撃を受けました。しかし、震災から9ヶ月が過ぎ、原発事故の報道も減って国民はそろそろ危機感が薄れていないでしょうか？

福島原発も落ち着いたかと思っていませんか？

とんでもない！福島第一原発1-4号機はまだコントロール困難な状態で、施設内部では更なる崩壊の危機の中でギリギリの攻防が続いているのです。大破壊された施設からは、今この時も大気と海に大量の危険な放射性物質が放出されています。

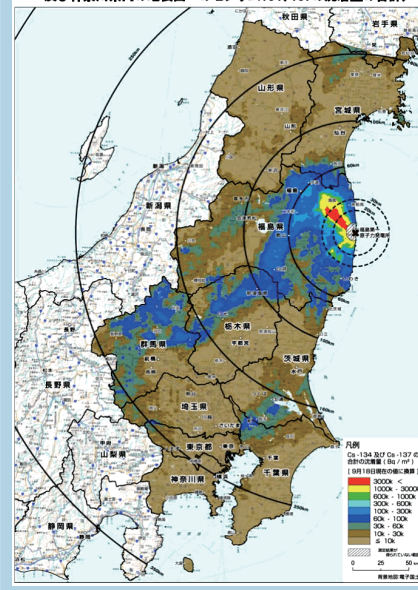
今年9月に文部科学省が発表した放射性セシウム汚染マップをご覧ください。

福島第一原発から飛散した放射性物質は風に乗って、福島市、二本松、郡山、那須、日光などの都市を高濃度で汚染し、更に群馬の川場、新潟の南魚沼の方へも集積しています。西は会津や喜多方まで、北は海上を通過して一関や平泉にも多く流れ、首都近くでは三郷・松戸などに比較的高く溜まっています。

この図が発表された9月以降も排出は続いており、汚染域は更に拡大しているはず。この図では都内の汚染は低いようですが、このデータは意図的に改ざんされている可能性があります。

純粋に医学的見地に立てば、汚染マップで緑色以上の高濃度地域で、お子さんをお持ちのご家庭は、西日本に避難された方がよろしいでしょう。そして、福島・栃木・茨城・群馬・千葉・宮城産の農産物、近海の水産物は極力避けるべきです。例えば、群馬産のキャベツやレタスなどは汚染されていると考えられ、食べてはいけません。政府や農協の発表は信用せず、ご自身での判断と責任でお客様の未来を守ってあげて下さい。

文部科学省による東京都及び神奈川県、山梨県の航空機モニタリングの測定結果について(文部科学省がこれまでに測定してきた範囲及び東京都及び神奈川県内の地表面へのセシウム134、137の沈着量の合計)





石油・石炭は何からできた？間違いだらけの「科学」常識

「化石燃料」？

私たちは学校の理科で、「石油・石炭・天然ガスなどは古代生物の死骸が地層深くに堆積し、長い年月に渡って高い圧力と高熱の作用を受けて変質・濃縮されたものであり、これを化石燃料と称する」と習いました。この考えは「生物起源説」と呼ばれ、石油や石炭の中に生物由来の物質が検出されたことがその根拠となっています。

ところが最新研究の結果、石油・石炭の「常識」だった生物起源説は完全な誤りであることが解りました。石油も天然ガスも、そして（亜炭・泥炭以外の）石炭も、「化石燃料」ではなかったのです！

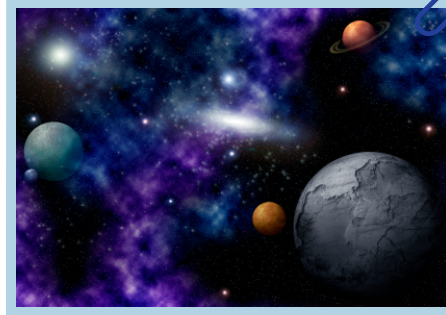


石油は地底から湧いてくる

ではこれら炭化水素（石油・天然ガス・石炭などの成分）はどこから来たのでしょうか？

長年、炭化水素類は植物が作る有機物からしか得られないと考えられてきましたが、近年の宇宙物理学の研究で、炭化水素は宇宙に漂う物質としてありふれた物質であることが解りました。地球創生時に炭化水素も岩石物質ともに地中に取り込まれたのです。実際、生物のいない土星や木星の大気にも炭化水素は大量に存在しています。

原始地球の深部に含まれた炭化水素は、岩石より軽いのでじわじわと浅い層に上昇してきます。そして地層の隙間に溜まったものが石油や天然ガス、比較的浅い層に達し水素が抜けて炭素だけになったものが石炭です。この仕組みを石油・石炭の「深層ガス説」あるいは「無機起源説」と呼びます。



今までの「常識」からすると、にわかに信じられないかと思いますが、生物起源説では未解明だった多くの矛盾点が、「深層ガス説」では全て解決できるのです。

深層ガス説を詳しく検証して発表したのは、アメリカ・コーネル大学、宇宙研究センターのトーマス・ゴールド氏。1988年発表の彼の著書は世界観の転換をもたらしました。

深層ガス説 数々の強力な証拠

ゴールド氏が述べる深層ガス説の根拠を、以下に紹介します。

- ◆ 生物が堆積したことの無い溶岩地帯や、非常に深い地層から天然ガスや石油が発見されている。
- ◆ 生物起源説では石油は海洋プランクトンの堆積物、石炭は大森林の遺骸と説明しており、同じ地域に重なって存在するはずがない。ところが現実には石油と石炭は同じ地域に分布することが多い。（石炭は浅い層に、石油は深層に見つかる）
- ◆ 石油や天然ガスを採掘すると、減ったはずの石油や天然ガスがいつの間にか再充填されてくる。（つまり深層からどんどん湧いてきている）
- ◆ 石油や石炭の中に混在する生物由来の物質は、地底深部でメタンなどを食べる細菌類が作った物質であった。



「科学」も「常識」も疑いましょう。

深層ガス説を裏付ける根拠は他にも多数あり、正しいものと確信できます。

けれどもゴールド氏が「深層ガス説」を発表してから20年も経つというのに、なぜいつまでも深層ガス説が拡がらないのでしょうか？なぜマスメディアでは一切報道されないのでしょうか？

恐らく、「生物起源説」に都合の良い勢力が「深層ガス説」を妨害していると推測されます。産油国や石油企業としては、生物起源説を根拠に「石油はもう直ぐ涸渇する！」と言うことで、石油生産を制限し価格を高く吊り上げ、ボロ儲けすることができます。

また、原発推進派にとっては「石油涸渇」で人々の不安をあおり、原発を建設する世論を誘導し、これまた大儲けができるのです。

深層ガス説を理解すれば、まだ莫大な石油資源が存在し、今後も数千年に渡って利用可能なことが解ります。私たちは資源枯渇に怯える必要はなく、恐怖の原発に依存する理由も全くありません。

私たちはこのように、嘘の「科学常識」で洗脳されていることが少なくありません。有名な学者の説や、立派な教科書の知識も、永久に正しいとは限りません。

「常識」も鵠呑みにせず、複数の情報を調べて自分の頭で考える習慣が大切です。